

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



第34号

発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

道NIE推進協08年度総会

新規実践校を紹介

10月稚内で初のセミナー

北海道NIE推進協議会(会長、山田家正・小樽商科大学名誉教授)の2008年度総会が6月14日、北海道新聞社で開かれた。本年度のNIE実践校に内定した、過去最多の48校のうち、新規校と各校の代表者が紹介された。また、札幌市内の小、中、高校の3教諭による実践発表があった。

総会には、NIE実践校の教諭や教育関係者、報道関係者ら約70人が参加した。来賓の北海道NIE研究会・日下部憲一会長(札幌市宮の森中学校長)、北海道教育庁学校教育局長、札幌市教委学校

指導主事、十勝新聞教育研究会・舟越洋二会長(鹿追町鹿追小学校長)、日本新聞教育文化財団・赤池幹NIEコーディネーターが、それぞれ挨拶した。赤池氏は、新しい学習

指導要領に反映されたNIEの考え方について、「新聞活用、新聞づくり、新聞の機能学習というNIEの3本柱がすべて国語教育に盛り込まれたが、ポイントはそれらが学校現場でいかに実施されるかである。そのためのノ

公民で一人ディベート

読解力育成を目指す 3教諭が実践報告

総会のNIE実践報告では、札幌市厚別通小・関本勝幸教諭、本別町勇足中・伊藤啓展教諭、札幌藻岩高校・松澤剛教諭が新聞の機能学習や活用方法についてそれぞれ発表し、写真2。

情の単元「私たちのくらしと情報」の中で、多くのメディアが信頼できる情報の取り上げに、新聞社を取り上げた。「締め切り時間が異なる早版、遅版の紙面を比較することで、新しい情報を正しく、早く、読み手に届ける工夫や努力をしている新聞社の人々の営みを学ぶことが出来る情報を込められた伝える側の思いや願いを、読む側の立場と対比させて、



新聞の良さを見直すことが出来た」と報告した。伊藤教諭は、昨年の実践校としての取り組みを

報告。①夏休みの課題で、全校生徒35人を対象に「気になる新聞記事を選び、内容要約と感想を書かせた②2学期以降の2年国語科で、毎時間十分間問題点探しと内容をまとめる授業を実施した。③夏休みの課題は一人ひとり、小規模校だから出来たこと。登校後、楽しいからと必ず新聞に目を通す生徒も出てきた。実践3年目の今年には他教科でも取り組んでみたい」と意欲を語った。松澤教諭は、PISA

型学力調査の自由記述型問題で高校生の「無回答」が多いことから、読解力育成を目指し、公民科で一人ディベートの授業に取り組んだ。「成人年齢の18歳以上引き下げに関する賛否の記事を読ませ、ワークシートで論点を整理、自分と相反する意見に対して反論を書かせた。最後に文章にまとめさせたが、普段じっくり考えずに慣れていた生徒達には刺激になったようだ。今後も続けて論理的思考を身につけさせたい」と報告した。



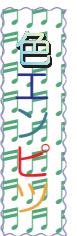
市東小の細川奈美恵教諭、このあと、本年度の活動計画、予算案、役員改選などを審議、了承された。活動計画では、稚内・宗谷セミナーの初の開催(10月)を予定しており、過去最多となる10地区でセミナーを実施する。出席した新規実践校の担当教諭らを代表し、挨拶する細川奈美恵・滝川市東小教諭

ウハウを伝えるには、新聞社の協力が必要であり、尽力したい」と述べた。続いて事務局から実践校48校(新規17校)の内定について報告があり、出席した新規13校の教頭、担当教諭を代表して滝川市東小の細川奈美恵教諭

が決意を述べた。また、本年度日本新聞教育文化財団から新たに委嘱された5人のNIEアドバイザーが紹介され、菊池安吉・旭川市聖園中教頭が代表挨拶した。

継続可能なNIE

「山が流れてきた」。地震が東北の山間集落を直撃し、自然の猛威に衝撃を受けた▼6月、学校経営が軌道に乗り教育目標の具現化に向けて実践が着々と進んでいる▼各校から新聞を生きた教材とした実践が報告されている。小学校低学年の活用効果も認めるが「内容が難しい」「漢字のルビ打ちに手間がかかる」と実践が少ない▼夕張太小学校1年担任の浅井先生は国語で、新聞に掲載された、胴体に馬の形の斑紋が浮き上がった子馬(十勝清水町「ムーミン牧場」)の写真がアオダイショウを格闘の末に捕らえた写真を活用。吹き出しをつけて「心の声」を書く授業など感性豊かな子供の気持ちを大切にしたい実践をした▼NIE総会で、滝川市東小学校の細川先生が新規実践校を代表し「新聞活用授業で情報収集、活用、評価力が育つ。コミュニケーション能力や表現力もつけさせたい」と力強く宣言した▼全道10箇所の地区セミナー、小中高校の校種間の接続を計り、継続可能なNIE活動の展開を推進していきたい。(高)



壁新聞作りで感性磨く

釧路セミナー 4 教諭が実践例

北海道 N I E 推進協議会主催の第 7 回 N I E 釧路セミナーは 6 月 21 日、釧路教育大生ら約 30 人が参加し、釧路新聞社で開かれた。釧路地方の小、中、高校の教諭 4 人がかべ新聞づくりを通して生徒の感性を磨く事例などを報告した。

実践報告では、釧路市愛国小の高桑一夫教諭が 5 年社会科の単元「くらしを支える情報」で、テレビ局ではなく新聞社を扱う指導事例を発表。「子どもの考える力を育む効果がある」と強調した。

標茶町標茶中の秋山豊

出席者から活発な質問、意見が出た釧路セミナー



教諭は、職場訪問を通じて「インタビュー」について「インターネットに頼らず、新聞を参考にしたり、地域の話題や時事問題を自分事としてとらえる、取材で対人経験を積むなど、新聞制作を通して生徒たちは感性を磨き、社会性を身に付けている」と報告した。

昨年のはわがまち新聞コンクールで全国一となった。木下正大教諭は「地域への関心のアンテナを伸ばしたり、地域の話題や時事問題を自分事としてとらえる、取材で対人経験を積むなど、新聞制作を通して生徒たちは感性を磨き、社会性を身に付けている」と報告した。

11 月に宮の森中で道 N I E 研究大会

北海道 N I E 研究会は 08 年度の総会を 6 月 14 日、北海道新聞社で開き、第 13 回北海道 N I E 研究大会を 11 月 21 日 (金) 札幌宮の森中で開く。予算を決め、活動計画、予算を決め、役員を改選した。

推進する小中学、高校の教員組織。活動計画では、第 1 回実践交流会「夏季研修会」(8 月 8 日) 第 2 回実践交流会「冬季研修会」(来年 1 月 13 日、会場はいずれも北海道新聞社 N I E プラザ) の開催にも取り組む。

教員 1 年目の授業崩壊の体験から、新聞記事には書籍・雑誌・テレビ番組・インターネット資料と一緒に何度か頼ってきた。実践内容もマンネリ化に陥らないように毎年、何かしら工夫し



佐藤 啓貢

札幌琴似工業高教諭

続続 3 年目になる取り組みのひとつに、少人数の選択授業で「作家など識者による顔写真付きのコラム」を年間 40 枚切り抜きさせ、各コラムの言葉の意味を 20 個調べ、自分の感想 (200 字程

N I E 実践奮闘記

自身の投稿掲載例を活用

度)を書いて、その感想文を読んだコメントを友だちからもらい、学習の集大成として卒業論文を執筆するという実践がある。この実践には、卒業生たちの優れたノートや作品がないと、生徒

は自分でも挑戦してみた。その結果、沖縄から釧路までの全国の地方紙 20 紙に 3 カ月間で 20 回以上掲載してもらった。思いがけず投稿実践の副産物もあった。まずは、自

徒たちにはなかなか説明出来ない。投稿欄への投稿実践も年 2 回ほど行っている。昨年度は 2 紙 (朝日・神戸) に掲載してもらった。選択授業の生徒や部活動の文芸部員にばかり「投稿をやろう」といつも言っているが、肝心の自分が一度も投稿したことのないことから、今年

分自身がニュースを細大漏らさず知るようになった。原発問題に焦点を当てる東奥と新潟、J R 新潟脱線事故問題を特集する神戸、「水俣病百科」欄をホムページに開設している熊本日日、「戦争と平和」や龍馬について語る高知新聞などを知った。今まで、全国紙だけを紹介して「新聞の見方」を放

映している朝の TV 番組の『ズームイン』や『朝ズバッ!』などに違和感を持っていたが、その感は今更の思いになった。昨年度までの授業では、卒業生の投稿掲載例を手本に示していたが、今年度は、自分が投稿したホットとする話「ほんわか御当地ネタ」が掲載された紙面を示して、全国各紙への投稿を指導している。

北海道 N I E 推進協議会 08 年度役員 (6 月 14 日現在)			
(敬称略)			
顧問	吉田 洋一	北海道教育委員会教育長	
会長	奥岡 文夫	札幌市教育長	
副会長	山田 家正	小樽商科大学名誉教授	
同	穂積 邦彦	北海道教育庁学校教育局長	
同	西村 正	札幌市教育委員会学校教育部長	
同	日下部 憲一	北海道 N I E 研究会会長	(札幌市立宮の森中学校長)
同	舟越 洋二	十勝新聞教育研究会会長	(鹿追町立鹿追小学校長)
同	岡田 実	北海道新聞社取締役経営企画室長	
幹事	三上 雅俊	朝日新聞社北海道支社報道センター長	
同	佐野 裕次郎	読売新聞社北海道支社編集部次長	
同	對島 好一	産経新聞社札幌支局長	
同	藤井 正友	北海道新聞社 N I E 推進センター長	(事務局長)
監事	浅野 俊和	時事通信社札幌支社長	
同	末次 一郎	十勝毎日新聞社札幌支社長	

「赤ちゃんポスト」賛否討論

熊本市の慈恵病院が赤ちゃんポストを運営して1年。設置の賛否論議が続いている中、札幌宮の森中では、3年生たちが社会科（公民）の授業で、同ポスト設置の是非について新聞2紙の記事を参考に議論した。（小田原賢二・北海道新聞N I E推進センター委員）

札幌・宮の森中



赤ちゃんポストの設置に反対の声が多かった宮の森中3年1組の授業

北海道十勝新聞教育研究会はこのほど、「十勝新聞教育・平成19年度実践の歩み」＝写真＝を発行した。

昨年10月、音更町下土幌小で開催された第18回十勝新聞教育研究大会音更大会、北海道N I E推進協議会と共催し

十勝新聞教育研は「19年度の歩み」



た第6回帯広・十勝N I Eセミナーなどの内容が詳しく掲載されている。A4判。162ページ。

内容は、同研究会のホームページ (<http://www7a.biglobe.ne.jp/~toshinken/>) で見ることができる。

北海道N I E推進協議会は6月初め、2007年度の実践報告

工夫こらした授業再現

希望者には無料配布する。申し込みは当協議会事務局へ。申



07年度実践報告書発刊

写真「教育に新聞を」(第11集) 書「教育に新聞を」(第11集) 写真IIを発刊した。

各りポートには、教科、領域を問わず創意と工夫にあふれた実践方法が生きてきと再現されており、初めてN I Eに取り組む先生たちには大いに参考になる。A4判、257ページ。

今年度の公民の参考資料には赤ちゃんポストの新聞記事が写真入りで登場している。及川永江教諭は、3年各クラスの「人間の尊重と日本国憲法」の単元で、この問題を取り上げた。見学したのは6月上旬3年1組(生徒35人)。

実践校リポート

授業は、及川教諭が同ポストの設置について賛否を問うことから始まった。大部分の生徒たちが「反対」の挙手。続いて及川教諭は、同

ポスト設置1年のリポート記事が掲載されている新聞2紙の記事のコピーを、二手に分けた生徒たちにそれぞれ片方の記事だけを配

布した。生徒たちは記事を読み、賛否の理由を書き、ある文にラインを引いてワークシートに記入。そのあとグループに分かれ約15分間討

議、代表者がグループの意見をまとめて発表した。反対は「捨て子を助長する」「障害児の預け入れがあり、安易な利用につながる」。一方、賛成は「赤ちゃんの命を救う」「追い詰められた母親を助ける」といった意見が出た。

及川教諭は、「障害児の預け入れが複数あったことを書いてある記事の見出し、内容にかなり影響されたようだ」と驚いている。赤ちゃんの命を守るよりも障害を理由に育児を放棄した親への批判が強く働き、賛成にブレーキがかかったようだ。

記事の論調が影響 「複数紙の読み比べ必要」

私たちの記事が紙面になった！

生徒ら記者体験に感動

道内の4地方紙は、それぞれの地域の学校と密着したNIE活動を展開している。各紙の取り組みを4回にわたって紹介する。第1回

は、室蘭民報社を訪れる中学生の記者体験学習や、毎年秋に実施する小中学生新聞コンクールなどについて、同社から寄稿してもらった。

①室蘭民報社

中学生グループの記者体験学習が最近増えている。「おおー」。子供たちの抑えた感動の声が上がった。自分たちが書いた記事、写真が組み込まれた「新聞」が出力された瞬間だ。苦勞が紙面になる喜び—それは本物の記者も体験学習の生徒も変わらない。中学生の記者体験申し込みは年間5、6件。1グループ3〜6人ほど。デスクが対応する。体験のメーンは、本物の催し取材。会場では、団体代表や会員、市民など。

壁新聞作りにも積極的

とも熱心だ。整理部のベテラン記者が記事、見出し、レイアウトについて熱弁を振る。同新聞コンクールは今年23年目。昨年は26校から122点の応募があった。

4地方紙の取り組み



室蘭地方小中学生新聞コンクールの審査風景(昨年10月9日)

ど、あらかじめ分担を決めた取材対象にインタビューする。社に戻るとパソコンに向かい原稿打ち。頭を抱える子もいる。その間に整理部記者に組版機の準備をさせ、子供たちの記事を流し込んで出力する。

各、出来映えに大差なく、高水準だ。加えて4年前からは個人新聞「ほくのわたしの新聞」も実施。A3判サイズの製作で、昨年の応募数は小中264点と、こちらも子供たちは積極的だ。

小学校の本校見学も少なくない。質問内容からは、昼夜を問わない記事づくりの仕への興味がうかがえる。こうした取り組みを通し、新聞が

編集後記

○…第7回釧路セミナーは今回初めて釧路新聞社を会場に開かれた。NIEに熱意がある春日井茂同社長の鶴の一声で実現した。会場設営などにご協力頂いた同社の方々に大変感謝している。
○…春日井社長はセミナー冒頭のあいさつで、学校での新聞活用の重要性を強調するだけでなく、実践報告をメモを取りながら、最後まで熱心に聞いておられた。意気込みを心強く感じた。
○…道内4地方紙の本拠地でのセミナーは、十勝毎日新聞社と北海道新聞帯広支社が毎年交互に会場を提供する帯広を除き、ほとんど道新各支社で開いている。
○…釧路も今後は帯広同様道新支社と1年交代となるが、室蘭、苫小牧でのセミナーも室蘭、苫小牧両民報社と道新支社が交代で開催できればありがたい。新聞社同志の連携が深まるだけでなく、教育現場でのNIEの輪を広げることにつながると思う。(小)

お知らせ

7月4日に函館セミナー

当協議会主催、渡島教育局、函館市教委後援の第7回NIE函館セミナー

時代の転機は今！漫画でメッセー

新聞博物館で展示会

第一線で活躍する漫画家やイラストレーター32人が描き下ろした1コマ漫画約80点を展示する「一枚マンガの折り返し展」が6月28日から9月13日まで、日本新聞博物館(横浜市中区日本大通11、横浜情報文化セン



入場料は一般・大学生500円、高校生300円、小中学生無料。開館時間は午前10時〜午後5時。月曜休館。

らゆるジャンルの情報源であることに子供たちが気づき、情報を生活に生かすきっかけになればと願っている。(室蘭民報編集局長・高木忍)

1は7月4日(金)午後零時30分から函館市神山小(神山町233)で開かれる。神山小の深澤昌明教諭が6年3組の社会科の授業「縄文ワールドを探そう、まとめよう」を公開し、小・中学、高校で新聞活用の授業に取り組み次の3教諭が実践例を報告する。渡島教育局、函館市教委からそれぞれ指導主事が出席し、助言する。

参加申し込み・問い合わせは同協議会事務局へ。◇報告者 北斗市上磯

小・附田勇人教諭、函館市恵山中・中村英彦教諭、七飯高・高瀬容子教諭◇助言者 渡島教育局・小笠原学指導主事、函館市教委・寺本公彦指導主事

「ほっかいどうNIE通信」は、北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)で、バックナンバーからご覧になれます。